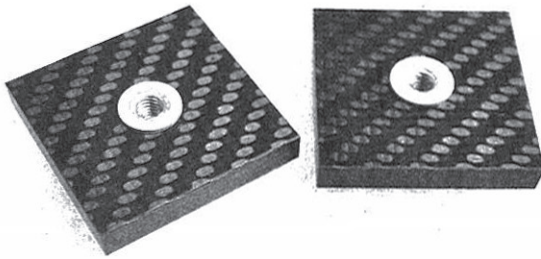


CFRTP使用の自動車向け 専用留め具開発へ

西精工



CFRTPに押し込んだナット。西精工などが自動車への活用に向けた研究開発を進める

18年度以降に商品化

ナット・精密機械部品製造の西精工(徳島市)が、炭素繊維強化熱可塑性プラスチック(CFRTP)を使った自動車向けに、専用留め具の研究開発を始めた。強くて軽い素材のCFRTPは車体への利用拡大が見込まれており、同業他社に先行して専用留め具の分野を確立し、新たな収益源に育てる考えだ。

研究開発は、ボルトメーカーのヒラノファステック(同市)、県立工業技術センター、徳島大などと共同で2015年度から17年度まで実施する。現在、主流となっている鋼板の車体の場合、ナットやボルトといった留め具を溶接で取り付ける。しかしCFRTPは溶接ができないため、専用の留め具と取り付け技術の開発を目指す。

現時点では、CFRTPに穴を開け、加熱して軟化させながら留め具を押し込む方法を想定。CFRTPとの密着力を高める形状の留め具や、簡単に押し込むことができる装置の開発を進めている。研究期間中にこれらを特許出願する予定。CFRTPなどの炭素繊維複合素材は車体を軽量化でき、燃費向上に役立つことから、自動車部材への普及が見込まれている。既にトヨタ自動車の高級車ブランド「レクサス」やドイツの自動車大手BMWの一部車種で取り入れられている。西精工は18年度以降に商品化し、トヨタの

関連企業を中心に売っていき考え。
平田武彦常務取締役は「当社は自動車向けの製品が7〜8割を占めており、自動車業界のCFRTP普及に対応した新たなビジネスに力を入れていきたい」と話している。
(久保高茂)